

20
27

教育学研究科

教育学専攻
修士課程

教育学研究科は、幼児・児童・生徒の思考力・判断力・表現力などを養成する高い実践的指導力を持ち、知識・技能の絶えざる刷新のために、教職生活全体を通して教育について探究し続けることのできる、高度専門職業人としての教員の養成を目指し、そのための研究を行います。

特長

「研究し続ける教員」の 養成のための実証研究を行う

平成24年8月の中央教育審議会答申以降「学び続ける教員像」の確立が求められ、「自ら課題を設定し、学校現場における実践とその省察を通じて、解決に向けた探究的活動を行う」ことの重要性が増しています。教育学研究科ではこの「学び続ける教員」をさらに進め、「研究し続ける教員」の養成を主な目的とします。そのために現役の教育者及びこれから教員を目指す学生に対し、教育に対する知的関心を常に持ち、自らの実践の中に課題を見い出し、それを学問的に解決し、さらに評価・改善して教育に還元できる、創造的な研究能力を養成していきます。また、このための理論的かつ実践的な実証研究を行います。

幼児教育から初等教育、中等教育への 連続性に配慮した教員の養成と研修の場

幼児教育、初等教育、中等教育の連続性に配慮した、幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・高等学校教諭までのより高度な教員養成・研修の場を提供します。

実践的な研究の場として 長期インターンシップを必修化

教育学研究科は、教職大学院と同様、学校や幼稚園の中で院生が主体的に研究を推進していく場として、半年から1年間にわたる実践的な科目「教職インターンシップⅠ」「教職実践研究」を必修科目（現職入学者は選択科目）として設けます。さらにこの科目の成果を発展・展開させる、より自由度の高い選択科目「教職インターンシップⅡ」を開設しています。実習先は、附属幼稚園、附属小学校、併設中学校・高等学校を有する総合学園である本学の多様な校種および名古屋市の学校・幼稚園から選ぶことができます。

学部新卒院生と現職院生が共に学ぶ研究科

これまで長らく文化の伝承と発展の根幹として機能してきた学校教育システムは、昨今の社会の急激な変容に伴い、多方面にわたり多くの課題を抱えるに至っています。そのような教育現場において日々課題と向き合うこととなる教員は、教職に対する使命感や責任感と同時に、教科や教職に関する高度な専門知識と実践的指導力が求められます。

教育学研究科は、そのような資質能力を持った高度専門職業人として教育の分野で活躍できる人材の育成を目指しています。大学を卒業した後にも更なる研鑽を積みより深く学びたい方々だけでなく、すでに教育現場で活躍しつつも直面する課題に関する新たな知見を身につけ現場に生かしたいと考える方々も、私たちとともに学ぼうではありませんか。

より高度な 教科教育についての研究を行う

学校教育の中で、知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的な学びを重視し、こうした学びをデザインできる教員が求められています。このためには、教科への深い知識が必要です。教育学研究科では、教科教育に関わる実践的な研究を重視し、特に複数教科間の関連性、校種を縦断する系統性に配慮した研究を行います。また、教科指導法と教科専門とを繋げる研究が求められており、これを積極的に推進します。椋山女学園大学ではすでに学部レベルでも、特に中等教育の数学・音楽についてこのようなカリキュラムが構築されており、その方向をより高度化、拡充していきます。

教職についての基礎理論と実践との 相乗効果により教員養成の高度化を図る

教育学・教育心理学・幼児教育学においても、基礎理論をより深く広く理解修得するとともに、理論に裏付けられた教育実践力を身に付けることを目指します。このために最新の研究を理解するための理論的科目や、発展的・実践的な最前線のアプローチを理解するための実践的研究科目を開設し、教育における理論と実践との統合を意図したカリキュラムを構成しています。

幼児教育から小・中学校教育に 重点を置いた実践的教育研究の実施

現在、教科教育では小学校と中学校との連続性が十分に意識されていません。また、小学校低学年でのさまざまな問題解決には保育・幼稚園教育との連携が重要と考えられています。教育学研究科ではこうした幼児教育から義務教育課程を中心とする教育を重視し、保育所・幼稚園、小学校、中学校に通用する幅広い教育能力を持つ教員を積極的に養成します。



教育学研究科長
竹内 聖彦

大学院進学予定者・大学院在学者には教員採用選考試験で特例措置が講じられます。

教員採用選考試験に「合格」した場合、大学院への進学予定者または在学中の者に対し、大学院を修了（修了見込みを含む）し、さらに受験した区分・教科の専修免許状を取得できることを条件に、採用が猶予され、あるいは修了（修了見込みを含む）後の採用選考試験において特別措置が講じられることがあります（対象者・内容は自治体や年度により異なります）。

詳しくは [裏面Q&Aへ](#)

カリキュラム

授業科目	
基礎理論科目	保育職特論
	教育思想特論
	比較教育学特論
	教育方法学特論
	幼児教育学特論
	幼児心理学特論
	教育心理学特論
	生涯発達心理学特論
	特別支援教育学特論
	小計（9科目）
実践研究科目	保育臨床特論
	障害児保育特論
	発達障害学特論
	臨床発達心理学特論
	異文化間教育特論
	特別活動特論
	生徒指導特論
	ICT活用演習
	小計（8科目）
教科、領域及び指導法（初等・幼児）科目	保育内容研究
	国語科教育内容研究
	社会科教育内容研究
	理科教育内容研究
	図画工作科教育内容研究
	家庭科教育内容研究
	体育科教育内容研究
	外国語科教育内容研究
	日本文学特論
	科学教育演習
	造形表現演習
	国語科指導法演習
	算数科指導法演習
	音楽科指導法演習
	図画工作科指導法演習
	小計（15科目）
教科及び指導法（中等）科目	数学科教育内容研究
	代数学特論
	幾何学特論
	解析学特論
	現代数学特論A
	現代数学特論B
	現代数学特論C
	数学教育学特論

授業科目	
教科及び指導法（中等）科目	情報数理演習
	音楽科教育内容研究
	器楽研究AⅠ
	器楽研究AⅡ
	器楽研究BⅠ
	器楽研究BⅡ
	声楽研究Ⅰ
	声楽研究Ⅱ
	作曲研究Ⅰ
	作曲研究Ⅱ
	音楽学特論
	音楽教育学特論
教職インターンシップ	音楽表現演習
	小計（21科目）
	教職インターンシップⅠa
	教職インターンシップⅠb
	教職インターンシップⅡa
	教職インターンシップⅡb
	教職実践研究（初等）
特別研究	教職実践研究（中等）
	小計（6科目）
特別研究	特別研究
	小計（1科目）
合計（60科目）	

修了要件及び履修方法 修士（教育学）

修了要件は次の通りです。

・2年以上在学し、計30単位を修得します。

・学部からの進学者には、特別研究（6単位）、教職実践研究（初等）または（中等）（2単位）、教職インターンシップⅠaまたはⅠb（4単位）を必修（計12単位）とし、それらを履修して単位を修得します。現職教員に対しては、教職インターンシップⅠa及びⅠb並びに教職実践研究（初等）及び（中等）の単位は必修とせず、他の選択科目の単位をもって替えることができます。

・幼稚園教諭専修免許状、小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状（数学・音楽）、高等学校教諭専修免許状（数学・音楽）のいずれかを取得するのに必要な科目を履修しその単位を修得します。

・「特別研究」における研究成果として修士論文を提出し、学位審査委員会の審査に合格します。

取得できる資格

- ・幼稚園教諭専修免許状
- ・中学校教諭専修免許状（数学）
- ・高等学校教諭専修免許状（数学）
- ・小学校教諭専修免許状
- ・中学校教諭専修免許状（音楽）
- ・高等学校教諭専修免許状（音楽）

※入学時に対応する一種免許状を取得または取得見込みであることを条件とします。

これからの時代に求められる 「探究し続ける教員・保育者」=理論と実践をつなぐ

附属幼稚園・附属小学校・併設の中学校・高等学校や名古屋市内の園・学校でのインターンシップ、さまざまな現場との連携による実践事例研究によって、理論と実践をつなげ、より実践的な研究を試みていきます。また、現職教員の入学者には、インターンシップは選択となり、これまでの実践経験を土台にしながより深く広い視点から研究課題を探究していきます。

これからの時代に求められる 「質の高い実践力」

世界の教育・福祉の先進国では、教員養成の6年制が実施され、わが国においても、教師・保育者の資質向上が求められています。教育学研究科では、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭（数学・音楽）の各専修免許状の取得を通して現場の諸課題に対応できる、より質の高い実践力の修得を目指します。

現職教員の入学者への柔軟な個別対応

■現職教員は職務に従事したまま、学校現場を離れずに学修が可能

現職教員が働きながら研修制度などを利用し修士学位を取得することができるよう、夜間や土曜日を利用した個別の時間割編成をするなど柔軟に対応しています。

個人のニーズに応じた時間割

授業は少人数の個人対応で行います。受講者の事情に応じたフレキシブルな指導や土曜日などを活用して授業を受講できるよう配慮しています。

時間外開講に対応します

より専門的な領域での研究を目指す 3つのコース

■学校教育・幼児教育専修コース

学校教育または幼児教育に関する基礎理論と教育実践、小学校教科または幼稚園保育内容及びその指導法に関連した研究・教授の展開

■数学教育専修コース

中等教育数学の教科とその発展的内容、及びその授業実践を中心とし、初等教育の算数との教育的連続性を考慮した教科教育に関する研究・教授の展開

■音楽教育専修コース

中等教育音楽の教科とその発展的内容、及びその授業実践を中心とし、初等教育の音楽教育または芸術教育との教育的連続性を考慮した教科教育に関する研究・教授の展開

教員紹介 〈指導研究領域〉

■相川 保敏 教授

学校経営、社会科教育学。地域社会の物的・人的資源である地域の素材を活用し、学習者にとって自分事となるような教材化の研究など。

■安達 理恵 教授

外国語教育、異文化間教育、CLIL (Content and Language Integrated Learning, 内容言語統合型学習) と呼ばれる他の教科内容やプロジェクトのテーマを外国語で学ぶ指導法に関する研究領域。

■石橋 尚子 教授

発達心理学をベースに、幼児教育・保育・子育て支援にかかわる領域。乳幼児から小学生までを主な対象として、その発達の様相や指導・援助・支援のあり方等について、指導助言する。また、教育や保育の分野が抱える今日の課題について検討する。

■磯部 錦司 教授

幼児教育・芸術教育での表現領域、図画工作科における実践的研究及び子ども理解。造形表現をととした異文化間教育、諸外国との比較研究。社会的活動としての展開、ワークショップにおける実践、絵画を中心とした制作活動など。

■礎村 正樹 講師

幼児教育学、保育学。保育者の子ども理解と援助。特に保育者の人権意識に関する研究。また、保育者の実習指導に関する研究。

■伊藤 仁一 教授

幾何学を中心とする数学一般。特に直観幾何学といえるような誰にでも分かる図形の問題を扱う研究。また、その学校教育への活用。動的幾何ソフト等のテクノロジーを用いた教材開発。

■伊藤 博美 教授

幼児教育・保育に関わる領域。理論と実践の双方を視野におき、保育・教育の質向上につながる研究。幼児教育・保育に関する現代的な課題。

■川村 昌也 准教授

幾何学・解析学を中心とする数学一般。特に微分幾何学、大域解析学。

■清 葉子 准教授

幼児教育学・保育学が研究領域で、保育実践での教材開発、子育て支援と学生ボランティアの育成、幼稚園教諭・保育者の育成に関する研究。

■小杉 裕子 教授

ピアノ演奏法について、特にロマン派作曲家の作品。音楽教育の領域においては、子どもたちが興味をもって音にかかわり表現することのできる題材や、子どもたちの表現の受け止め方と援助法。

■佐藤 善人 教授

体育科教育学、スポーツ教育学。特に体育授業における運動遊び、持久走・長距離走を対象とした研究。運動・体育嫌いを生まない指導、子どもがやる気になる指導の在り方を検討する。

■高橋 麻織 准教授

日本古典文学研究。とりわけ、『源氏物語』を中心とした平安時代の文学作品の文学研究・文化研究とその周辺領域。また、中世・近世における『源氏物語』の享受史研究。

■竹内 聖彦 教授

幾何学・代数学を中心とする数学一般。特に代数幾何学、可換環論。日常の諸現象に隠された数理の学校数学への活用。

■筒井 紀貴 講師

特にロマン派から近代にかけてのピアノ演奏法・伴奏法研究。また、同時代の作品研究、近代音楽史に関する研究など。

■中巻 寛子 特命教授

バロック時代から20世紀までの声楽作品およびその演奏法に関する研究。また、その一環として、声楽教育において基本的な教材となっている「イタリア古典歌曲」等の研究。

■丹羽 健太郎 准教授

発達行動障害学。発達障害や被虐待児の理解と支援。特に施設や保育所等の生活場面における子どもの理解と治療的支援が研究領域。

■野崎 健太郎 准教授

自然体験型学習のカリキュラム立案。水の生き物を用いた教材開発。水質の化学分析を用いた教材開発。ものづくりへの興味を深める工作教材の検討。栽培活動と食育の統合を目指すカリキュラム開発。学校ビオトープを活用した体験型教材の開発。

■朴 信永 准教授

保育・子育てにおける省察に関する研究。幼稚園・保育所の園内研修、子育て支援に関する実践研究。保育者養成研究。幼稚園・保育所の第三者評価に関する研究。

■深谷 和義 教授

教育の情報化に関わる学校教育学。児童生徒の情報活用能力の育成、教科指導におけるICT活用、校務の情報化等に関する研究。

■藤井 秀比古 教授

発達行動小児科学。子どもの行動、言語、社会性発達の臨床的評価。小児科臨床における「心とからだ」の心身相関評価と多職種支援についての実践的研究。

■古市 直樹 准教授

教育方法学や教育哲学、とりわけ、[授業][授業研究][カリキュラム][教師][協同学習]などに関する研究。

■松村 齋 教授

特別支援教育学における実践研究。対象となる幼児児童生徒に内在する諸課題を収集し、人間的・教育的視点を持ちながら有効な支援へと導くための実践研究。教育現場の実践から見えてくる真の課題を分析し、授業法、教材・教具の発展的展開へと導く。

■室 雅子 教授

家族の家庭内行動における教育的動機付け、家庭教育によって身につける力と家庭科の在り方、大学における家政教育及び家庭科教員養成課程の現状と課題。

■森 和久 教授

学校経営、教員研修、国語教育学、特に児童生徒の主体的で深い学びが実現できる授業方法等の教育実践的な研究。

■山田 真紀 教授

教育の社会学的研究（質問紙調査・インタビュー調査・参与観察法を用いた実証的研究）。教育の比較教育学的研究（主に英語圏とフランス語圏）。専門領域は「特別活動」と「道徳」。

■山中文 教授

小学校及び中・高等学校における音楽科を中心とした授業づくり・授業過程の研究、乳幼児期の音楽活動、幼小接続に関する研究。

■渡邊 康 准教授

学校現場における音楽劇の制作。音楽評論。コンピューターミュージック及びコンピューターミュージックとコンピューターグラフィックの統合的作品の研究。



大学院生室



研究活動風景

■学校教育・幼児教育専修コース

学校教育または幼児教育に関する基礎理論と教育実践、小学校教科または幼稚園保育内容及びその指導法に関連した研究・教授の展開

履修モデル

学部卒業生																								
小学校教諭専修免許状				単位数		幼稚園教諭専修免許状				単位数		小学校教諭及び幼稚園教諭専修免許状				単位数								
				必修		選択						必修		選択						必修		選択		
基礎理論科目	教育思想特論			2	基礎理論科目	保育職特論			2	基礎理論科目	教育思想特論			2	基礎理論科目	比較教育学特論			2	基礎理論科目	比較教育学特論			2
	比較教育学特論			2		比較教育学特論			2		比較教育学特論			2		比較教育学特論			2					
	教育方法学特論			2		幼児教育学特論			2		教育方法学特論			2		教育方法学特論			2					
						幼児心理学特論			2		教育心理学特論			2		教育心理学特論			2					
実践研究科目	臨床発達心理学特論			2	実践研究科目	保育臨床特論			2	実践研究科目	発達障害学特論			2	実践研究科目	生涯発達心理学特論			2	実践研究科目	生涯発達心理学特論			2
	異文化間教育特論			2		発達障害学特論			2		発達障害学特論			2		発達障害学特論			2					
						障害児保育特論			2		臨床発達心理学特論			2		臨床発達心理学特論			2					
											異文化間教育特論			2		異文化間教育特論			2					
教科、領域及び指導法(初等・幼児)科目	国語科教育内容研究			2	教科、領域及び指導法(初等・幼児)科目	保育内容研究			2	教科、領域及び指導法(初等・幼児)科目	ICT活用演習			2	教科、領域及び指導法(初等・幼児)科目					教科、領域及び指導法(初等・幼児)科目				
	理科教育内容研究			2		造形表現演習			2															
	外国語科教育内容研究			2																				
	国語科指導法演習			2																				
教職インターンシップ	教職インターンシップIa	4			教職インターンシップ	教職インターンシップIa	4			教職インターンシップ	教職インターンシップIa	4			教職インターンシップ	教職インターンシップIa	4			教職インターンシップ	教職インターンシップIa	4		
	教職実践研究(初等)	2				教職実践研究(初等)	2				教職実践研究(初等)	2				教職実践研究(初等)	2							
特別研究	特別研究	6			特別研究	特別研究	6			特別研究	特別研究	6			特別研究	特別研究	6			特別研究	特別研究	6		
計		12	18		計		12	18		計		12	18		計		12	18		計		12	18	

履修モデル

学部卒業生											
中学校教諭(数学)・高等学校教諭(数学)専修免許状			単位数		中学校教諭(数学)・高等学校教諭(数学)及び小学校教諭専修免許状					単位数	
			必修	選択						必修	選択
基礎理論科目	教育思想特論		2	基礎理論科目	教育思想特論		2	基礎理論科目	教育思想特論		2
					比較教育学特論		2		比較教育学特論		2
					教育方法学特論		2		教育方法学特論		2
					教育心理学特論		2		教育心理学特論		2
					生涯発達心理学特論		2		生涯発達心理学特論		2
実践研究科目	臨床発達心理学特論		2	実践研究科目	発達障害学特論		2	実践研究科目	発達障害学特論		2
	ICT活用演習		2		臨床発達心理学特論		2		臨床発達心理学特論		2
					異文化間教育特論		2		異文化間教育特論		2
					特別活動特論		2		特別活動特論		2
					ICT活用演習		2		ICT活用演習		2
教科、領域及び指導法(初等・幼児)科目				教科、領域及び指導法(初等・幼児)科目	科学教育演習		2	教科、領域及び指導法(初等・幼児)科目	科学教育演習		2
					算数科指導法演習		2		算数科指導法演習		2
教科及び指導法(中等)科目	数学科教育内容研究		2	教科及び指導法(中等)科目	現代数学特論A		2	教科、領域及び指導法(初等・幼児)科目	現代数学特論A		2
	現代数学特論A		2		数学教育学特論		2		数学教育学特論		2
	現代数学特論B		2								
	現代数学特論C		2								
	数学教育学特論		2								
	情報数理演習		2								
教職インターンシップ	教職インターンシップIb	4		教職インターンシップ	教職インターンシップIb		4	教科、領域及び指導法(初等・幼児)科目	教職インターンシップIb		4
	教職実践研究(中等)	2			教職実践研究(中等)		2		教職実践研究(中等)		2
特別研究	特別研究	6		特別研究	特別研究	6		特別研究	特別研究	6	
計		12	18	計		12	18	計		12	18

履修モデル

学部卒業生												
中学校教諭(音楽)・高等学校教諭(音楽)専修免許状			単位数		中学校教諭(音楽)・高等学校教諭(音楽)及び小学校教諭専修免許状						単位数	
			必修	選択							必修	選択
基礎理論科目	比較教育学特論			2	基礎理論科目	教育思想特論					2	
	教育方法学特論			2		比較教育学特論					2	
						教育方法学特論					2	
						教育心理学特論					2	
実践研究科目	臨床発達心理学特論			2	実践研究科目	生涯発達心理学特論					2	
						発達障害学特論					2	
						臨床発達心理学特論					2	
						異文化間教育特論					2	
教科、領域及び指導法(初等・幼児)科目					教科、領域及び指導法(初等・幼児)科目	特別活動特論					2	
						生徒指導特論					2	
						ICT活用演習					2	
						音楽科指導法演習					2	
教科及び指導法(中等)科目	器楽研究AⅠ			1	教科及び指導法(中等)科目	器楽研究AⅠ					1	
	器楽研究AⅡ			1		器楽研究AⅡ					1	
	声楽研究Ⅰ			1		声楽研究Ⅰ					1	
	声楽研究Ⅱ			1		作曲研究Ⅰ					1	
	作曲研究Ⅰ			1								
	作曲研究Ⅱ			1								
	音楽学特論			2								
	音楽教育学特論			2								
教職インターンシップ	音楽表現演習			2	教職インターンシップ	音楽表現演習						
	教職インターンシップIb		4	4		教職インターンシップIb				4		
特別研究	教職実践研究(中等)		2	2	特別研究	教職実践研究(中等)				2		
	特別研究		6	6		特別研究				6		
計			12	18	計				12	18		

■音楽教育専修コース

中等教育音楽の教科とその発展的内容、及びその授業実践を中心とし、初等教育の音楽教育または芸術教育との教育的連続性を考慮した教科教育に関する研究・教授の展開

履修モデル

現職教員											
小学校教諭専修免許状		単位数		幼稚園教諭専修免許状		単位数		小学校教諭及び幼稚園教諭専修免許状		単位数	
		必修	選択			必修	選択			必修	選択
基礎理論科目	教育思想特論		2	基礎理論科目	教育思想特論		2	基礎理論科目	教育思想特論		2
	比較教育学特論		2		比較教育学特論		2		比較教育学特論		2
	教育方法学特論		2		教育方法学特論		2		教育方法学特論		2
	教育心理学特論		2		幼児教育学特論		2		幼児教育学特論		2
					幼児心理学特論		2		幼児心理学特論		2
					教育心理学特論		2		教育心理学特論		2
実践研究科目				実践研究科目				実践研究科目	生涯発達心理学特論		2
	発達障害学特論		2		保育臨床特論		2		発達障害学特論		2
	臨床発達心理学特論		2		発達障害学特論		2		臨床発達心理学特論		2
	異文化間教育特論		2		異文化間教育特論		2		異文化間教育特論		2
教科、領域及び指導法(初等・幼児)科目	ICT活用演習		2	教科、領域及び指導法(初等・幼児)科目	ICT活用演習		2	教科、領域及び指導法(初等・幼児)科目	ICT活用演習		2
	日本文学演習		2		保育内容研究		2		造形表現演習		2
	科学教育特論		2		造形表現演習		2		音楽科指導法演習		2
	国語科指導法演習		2								
音楽科指導法演習				音楽科指導法演習				音楽科指導法演習			
特別研究	特別研究	6		特別研究	特別研究	6		特別研究	特別研究	6	
計		6	24	計		6	24	計		6	26

※現職教員（勤務年数3年以上）で教育職員免許法第6条別表第三を適用する場合、免許状取得に必要な単位数が15単位まで軽減されるが、履修モデルはそれを考慮していない。

履修モデル

現職教員												
中学校教諭(数学)・高等学校教諭(数学)専修免許状			単位数		中学校教諭(数学)・高等学校教諭(数学)及び小学教諭専修免許状					単位数		
			必修	選択						必修	選択	
基礎理論科目	比較教育学特論			2	基礎理論科目	教育思想特論			2	基礎理論科目	教育思想特論	2
						比較教育学特論			2		比較教育学特論	2
						教育方法学特論			2		教育方法学特論	2
						教育心理学特論			2		教育心理学特論	2
						生涯発達心理学特論			2		生涯発達心理学特論	2
実践研究科目	臨床発達心理学特論			2	実践研究科目	発達障害学特論			2	実践研究科目	発達障害学特論	2
	ICT活用演習			2		臨床発達心理学特論			2		臨床発達心理学特論	2
						異文化間教育特論			2		異文化間教育特論	2
						特別活動特論			2		特別活動特論	2
						生徒指導特論			2		生徒指導特論	2
教科、領域及び指導法(初等・幼児)科目					教科、領域及び指導法(初等・幼児)科目	ICT活用演習			2	教科、領域及び指導法(初等・幼児)科目	ICT活用演習	2
						算数科指導法演習			2		算数科指導法演習	2
教科、領域及び指導法(初等・幼児)科目	数学科教育内容研究			2	教科、領域及び指導法(初等・幼児)科目	現代数学特論A			2	教科、領域及び指導法(初等・幼児)科目	現代数学特論A	2
	代数学特論			2								
	幾何学特論			2								
	解析学特論			2								
	現代数学特論A			2								
	現代数学特論B			2								
	現代数学特論C			2								
	数学教育学特論			2								
特別研究	情報数理演習			2	特別研究					特別研究		
計			6	24	計			6	26	計	6	26

※現職教員（勤務年数3年以上）で教育職員免許法第6条別表第三を適用する場合、免許状取得に必要な単位数が15単位まで軽減されるが、履修モデルはそれを考慮していない。

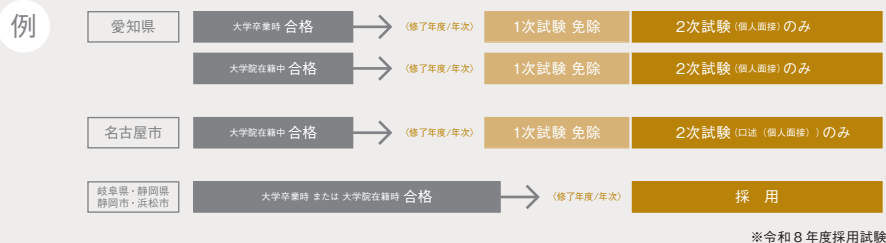
履修モデル

中学校教諭(音楽)・高等学校教諭(音楽)専修免許状			単位数		中学校教諭(音楽)・高等学校教諭(音楽)及び小学校教諭専修免許状			単位数		
			必修	選択				必修	選択	
基礎理論科目	教育思想特論			2	基礎理論科目	教育思想特論			2	
	比較教育学特論			2		比較教育学特論			2	
	教育方法学特論			2		教育方法学特論			2	
						教育心理学特論			2	
実践研究科目	発達障害学特論			2	実践研究科目	生涯発達心理学特論			2	
	臨床発達心理学特論			2		発達障害学特論			2	
	異文化間教育特論			2		臨床発達心理学特論			2	
	ICT活用演習			2		異文化間教育特論			2	
						特別活動特論			2	
教科、領域及び指導法(初等・幼児)科目					教科、領域及び指導法(初等・幼児)科目	生徒指導特論			2	
						ICT活用演習			2	
教科及び指導法(中等)科目	器楽研究AⅠ			1	教科及び指導法(中等)科目	音楽科指導法演習			2	
	器楽研究AⅡ			1		音楽科教育内容研究				
	声楽研究Ⅰ			1						
	声楽研究Ⅱ			1						
	作曲研究Ⅰ			1						
	作曲研究Ⅱ			1						
	音楽教育学特論			2						
	音楽表現演習			2						
特別研究			6		特別研究			6		
計			6	24	計			6	26	

Q&A

Q 教員採用試験の特別措置とは？

A 教員採用試験に大学院進学予定者が入学前に、また在籍者が在学中に合格した場合、採用を修了後に延期する措置や、採用時の特別な措置が行われます（その措置は自治体や年度によって異なります）。例えば愛知県の場合、採用試験に合格して入学した場合、最長で2年間採用が延期され、次年度以降特別選考（2次試験の個人面接のみ）での採用が可能となります。岐阜県と静岡県の場合、教員採用候補者名簿登載期間の延長を行います。三重県では、1年次在学中に合格した場合は、1年間の教員採用候補者名簿登載期間の延長を行います。



Q 教員に専修免許状は必要でしょうか？

A 現在、中央教育審議会答申では、「学び続ける教師」像が求められ、実践力の向上が課題として示されています。そのため、現場では、専修免許状を取得するための研修制度が確立しつつあります。また、世界の教育先進国では、教員養成6年制が促進され、インターンシップによる実践的研究が行われています。現場では一種免許状があれば十分に務めることはできますが、専修免許状の取得が今後さらに広まることが期待されています。

Q 奨学金はありますか？

A 椋山女学園大学大学院奨学金（給付型：授業料相当額）、日本学生支援機構（JASSO）による奨学金、各種財団の奨学金など、学内外においてさまざまな奨学金を用意しています。

Q 現職教員ですが、働きながら履修できますか？

A 本学は交通の便もよく、一對一の指導や少人数での授業を行っています。個人の要望に対応したトワイライトの時間帯での授業開講、土曜日や長期休暇を活用した集中講義など、個別の要望や事情に応じた教育研究指導を行います。

椋山女学園大学

星が丘キャンパス / 〒464-8662 名古屋市千種区星が丘元町17番3号
日進キャンパス / 〒470-0136 愛知県日進市竹の山三丁目2005番地

■お問い合わせ／入学センター

入学相談フリーダイヤル ☎ 0120-244-887

E-mail happy@sugiyama-u.ac.jp

●交通アクセス

